

農作物生育・技術情報9号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1 水稻生育状況 中苗：ななつぼし

9月中旬から収穫が始まりました。降雨や風による倒伏・なびきが見られますので、品質を落とさないように作業〔刈り取り・乾燥・調製〕を計画的にすすめましょう。

生育状況(9/15現在)		
項目	28年	平年
成熟期	9月16日	9月15日
生育の遅速	-1	-

〈技術対策〉

○収穫作業について

湿田での刈り取り作業では、水が停滞している場合、速やかに排水して土壌表面を乾燥させ、水田を痛めないように急旋回は避ける。

倒伏した稲は追い刈りでコンバインの速度を落とし丁寧に刈る。

○乾燥・調製について

籾水分が多く外気温が高い場合、ヤケ米の発生が多くなるので、通風乾燥を行い、徐々に熱風温度を上げ、二段乾燥で玄米水分が14.5～15%になるよに仕上げる。

胴割れは、籾の乾燥速度や外気条件によって発生が異なるので、晴天時など空気が乾燥している日は、急激な乾燥は避け熱風温度を下げてゆっくり乾燥させる。

○いもち病が発生した水田の稲わら(もみ殻含む)の処理について

水田から感染した稲わらを搬出し、本田や育苗ハウスから離れた場所に堆積して腐熟化させる。乾燥した稲わらの病原菌は死滅しないので、本田や育苗ハウス周辺への放置は絶対に行わない。やむを得ず稲わらを搬出できない場合は、稲わら全体が濡れるように水田の地表に広げたり、土中に混ぜ込むなど腐熟の促進に努める。

○収穫後の透排水性改善、稲わら処理について

走行軌跡に水がたまる場合は、溝きりなど排水対策を行い、水田の乾燥に努める。

秋起こしは水田の乾燥状態を確認してから行う。

また土壌診断を行い、地力窒素が残っている場合は稲わらを排出する。

2 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト 桃太郎8 桃太郎ギガ 桃太郎レコト	<ul style="list-style-type: none"> ・4月定植はおおむね収穫終了。 ・5月定植で7～8段収穫中。 ・6月定植で6段以降収穫中 ・葉かび病・灰色かび病・うどんこ病の発生・アザミウマ類、ハダニ類の発生が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生育状況やほ場の水分(乾燥)状態を見ながらかん水を実施する。 ・摘葉等を行い通気性を改善し、病害の発生を防止する。 ・病害虫の発生に注意し、早期防除を行う。
ハウス軟白ねぎ 杓イトード等	<ul style="list-style-type: none"> ・一部でタマネギハエ類による食害が見られる。 ・べと病、葉枯病による黄色斑紋症状が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉先枯れ部分に病害が感染し、黄色斑紋が発生し、品質が低下しやすいので葉先枯れが生じた時点で農薬を散布する。

作物名	生育状況	技術対策
アスパラガス (ハウス立茎) スーパーウェルカム	・一部のハウスで灰色かび病、斑点病の発生が見られる。	・夏芽収穫終了後は自然に枯れ上げるようハウスを開放し外気にあて養分転流を促す。 ・かん水は11月頃まで行う。
きゅうり ちなつ オーシャン	・生育はほぼ順調で、子づるの果実肥大が進んでいる。 ・うどんこ病・べと病の発生やアブラムシ等の寄生が一部のほ場で見られる。	・うどんこ病、べと病の防除には、予防効果の高い薬剤と、治療効果を伴う薬剤を使い分け、防除効果を高める。 ・アブラムシによる食害や幼虫を見つけた際には、早期防除を実施する。

※日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されました。この抵抗性は抵抗性のやや強いタイプⅢです。今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょう。

3 畜産

○サイレージ用とうもろこし生育状況（9月15日現在）
生育期節は、「糊熟」で進度率は100%です。
登熟は平年並ですが、収穫作業は既に始まっています。
黄熟期の平年値（進度率75%）は9月25日ですが、登熟が早まる可能性があります。
子実の状態を確認し、刈り遅れないようにしましょう。

生育期節	遅速日数
糊熟期 進度率85% (100日タイプ)	±0

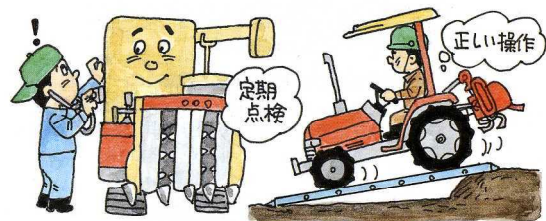
4 畑作

- 小豆
コンバイン収穫の適期は熟莢が100%に達し、子実水分が16～20%になった頃です。通常年は、完熟期後、約1～2週間以内が目安となります。
子実水分を優先して適期収穫をしましょう。
- 大豆
ほ場をよく観察し、汚粒の発生防止のためにわい化病株・雑草の抜き取りをしましょう。
- 秋まき小麦
雑草対策は秋処理が基本となります。イネ科雑草と越冬雑草の対策はこの時期が適期です。「除草剤使用ガイド」を参考にしましょう。

5 9～10月は秋の農作業安全運動期間です！

秋の繁忙期は収穫等の農作業が増えると共に、日没が早まり、作業中の事故が発生しやすくなります。

- <農作業安全の実践・確認項目>
- 休憩の取れる無理のない作業
 - 農作業や機械作業に適した服装
 - 点検・整備は、必ずエンジン停止
 - 油断せず後方確認、足下注意
 - 農道の走行時は、路肩の状況を確認



事故のない収穫の秋を迎えましょう！